

# 清流 ニュース

発行所  
八王子市子安町 1-22-25  
清流寺  
清流ニューズ編集室  
電話(042)646-0287(代)  
FAX(042)644-1164  
http://seiryuji.jp.org/

令和7年度総祈願  
本年度教化誓願達成・学徒・教務員増加  
日堯上人五ヶ年報恩御奉公・御七回忌前年の年  
寺内・境内整備ご有志継続・一口奉納御奉公推進  
御利益談を語る信徒の育成・御講願主・御会式参詣者増加  
お助行・御法門聴聞助行・御奉公内容充実・教講一同利益感得

## 高祖 750回御遠諱を目指して「祖師にかえれ」

### 年頭のことば

御講有 木村日覚上人

宗内のみなさん、あけましておめでとうございませう。新たな年をともにお迎えできたことを慶ばしく思います。

新年にあたり、本山御宝前においてご一同のご奉公成就と世界の平和・人々の安穩、自然災害により被災した各地の速やかな復興をご祈願させていただきます。

昨年は、年明けから能登半島地震が起こり、その後も地震・台風・ゲリラ豪雨など、自然災害の多発によって数多くの方々が被災の苦しみを味わいました。

そうした中、佛立第二十七世講有に晋位させていただいた私は、益々信心決定し、御法のご加護のもと弘通の大願成就のため、死身弘法の覚悟でご奉公に精進させていただきます。

また、昨年の十月より亀井宗務総長による新内局が発足し、来る令和十三年にお迎えする高祖日蓮大士七五〇回御遠諱に向けて報恩ご奉公の推進のため、新たな方針・方策も展開されてまいります。

願わくば宗内教講一同がなお一層信心改良し、口唱信行に励み、菩薩行の精神を遺憾なく発揮し、高祖の御弟子旦那として報恩の誠を尽くすべく、現証弘通に精進されんことを期待し、以て年頭のことばといたします。

### 御教歌

「吾祖師の みこころをしり 仕ふるを

まことの御弟子 旦那とぞいふ」

令和七年元旦

本門佛立宗第二十七世講有 日覚

御印

### 新年のごあいさつ

住職 長谷川 清泊

新年あけましておめでとうございます。かねてより御披露されてきた高祖日蓮大士七五〇回御遠諱、その御奉公が、今年度よりいよいよ始動する運びとなりました。

もつとも、高祖ご降誕八〇〇年慶讃ご奉公の時と同じく、翌年令和八年から五年にわたる御奉公が展開されることとなりますので、今年はその準備ご奉公という位置づけになります。いざスタートという時に出だしから躓かないよう、しっかりと準備御奉公をさせていただきます。

昨年は年の初めより、様々な出来事がありました。元旦早々より、石川県能登半島で大きな地震が起こり、今もその爪痕は大きく残っています。生活に目を向ければ物価の高騰がとどまる所を知らず、「とかく人の世は住みにくい」と溢してしまっている毎日が続いております。

また寺内では当山教務部・平松信応師が突然帰寂なされ、大きな衝撃が走りました。寺内外の御奉公に東奔西走、誇張でも何でもなく、ま

さに八面六臂・獅子奮迅の活躍をされていた方、今後の御奉公を考える上で決して欠けてはならない方でした。そのような方が突然、表舞台から姿を消してしまふ。これほどの無常はあるものか、と今でも深く悲しみは募ります。ですが、如説修行抄でお祖師さまは、「此経を聴聞しはじめん日より思ひさだむべし(中略)兼て申さざりけるか、経文を先として猶多怨嫉、況滅度後」と朝夕に教へしこと也」とお示し下され、私たちが常日頃より、その精神を受け継ぐため、忘れぬために拝読をさせていただきます。

ここで心折れていたら仏立菩薩ではない。現に平松師の教導を受けた豪州信徒の皆さま一人ひとりが、その悲しみを乗り越えて今現在一所懸命に御奉公下さつており、その姿に励まされたことは数知れません。

志を受け継いで御奉公させていただきます。私たちができるご恩返しです。前を向いて励む先にお計らいがあることと決定して、共に精進させていただきます。

また宗門全体としては「祖師にかえれ」というテーマが掲げられることになりました。

先ほどの如説修行抄の如く、艱難辛苦を御題目とともに乗れ越えられ、信の一字に徹して現証御利益を願うこと。お祖師さま、そのお祖師さまのお姿を手本として、今一度力強い信心前を我が身に備え、二陣三陣として続いでい

ていただきますよう。宗門では昨年、第二十七世御講有として大塚・遠妙寺の木村日覚上人、宗務総長として麻布・光隆寺の亀井日魁御導師がそれぞれご就任遊ばされました。はからずも私たちが一同はお膝元の布教区、その信徒として御奉公させていたたく事になります。

私自身、前期加藤日感御導師のあとを受け、第三十二期東京中央布教区長のお役目を仰せつかり、これは大変なことになった、と大きな重圧を感じております。

浅学非才にしてその任にあらず、の分際ではございますが、これも御宝前から賜った御奉公と決定し、布教区の隆昌発展に寄与できるよう、まずは一期三年間の御奉公にシッカリ取り組ませていただきます。

身近に御講有・宗務総長をいただく私たちだからこそ、しっかりと年頭のお言葉を身に体し、宗内の模範として率先垂範できるような御奉公を心がけさせていただきます。

また宗門全体としては「祖師にかえれ」というテーマが掲げられることになりました。

先ほどの如説修行抄の如く、艱難辛苦を御題目とともに乗れ越えられ、信の一字に徹して現証御利益を願うこと。お祖師さま、そのお祖師さまのお姿を手本として、今一度力強い信心前を我が身に備え、二陣三陣として続いでい

けるよう励まなければなりません。宗門基本方針にある「すぐいぞ佛立」と実感できる信心前を作り上げるため、一歩一歩着実に進んでまいります。

続いて、本年度の総祈願をご披露させていただきます。

① 本年度教化誓願達成  
学徒・教務員増加  
例年掲げている御祈願です。昨年はお寺として四〇戸成就という誓願を立てさせていただきましたが、結果は三十八戸成就という非常に惜しい結果に終わりました。

元プロ野球選手の落合博満氏は「志の低い者は、立てた目標以下の成績しか残せない」という言葉を残しています。いくらでも低く設定することは可能ですが、それでは志の低いお寺と言わざるを得ません。

定めた目標に向け、一丸となつて教化成就に向け励まさせていただきます。

② 日堯上人五ヶ年報恩御奉公・御七回忌前年の年  
早いもので、日堯上人五ヶ年報恩御奉公も四年目、来年一〇月二〇日に御七回忌をお迎えするところまで迫ってまいりました。今お寺にお参詣されているご信者の皆さまは、初代住職日序上人の事は存じ上げなくても、日堯上人から教えを頂戴した方ばかりだと存じます。

来年度の七回忌法要に向け、各教区各部今一度、お参詣・御奉公に向けた準備を進めてまいります。

また宗門全体としては「祖師にかえれ」というテーマが掲げられることになりました。

先ほどの如説修行抄の如く、艱難辛苦を御題目とともに乗れ越えられ、信の一字に徹して現証御利益を願うこと。お祖師さま、そのお祖師さまのお姿を手本として、今一度力強い信心前を我が身に備え、二陣三陣として続いでい

けるよう励まなければなりません。宗門基本方針にある「すぐいぞ佛立」と実感できる信心前を作り上げるため、一歩一歩着実に進んでまいります。

③ 寺内・境内整備(有志継続・一口奉納御奉公推進)

スロースタートとなりましてが、昨年、整備御奉公の第一弾として、納骨堂屋根修繕工事を実施し、無事完工いたしました。

ですが、この修繕工事は当初整備御奉公の計画に入っておらず、急遽、早急に工事すべきものとしてさせていたただいたものですから、ここからやつと当初の計画に則つて随時整備を進めていくこととなります。

当然の事ですが、日が経つ毎に老朽化は進み、その都度新たに修繕すべき箇所も増えてまいります。現在、これから整備すべき箇所を再提示・説明できるよう、寺務所と共に準備中です。

皆さまからの頂戴したご有志を活用しつつ計画を進めておりますが、いざという時、サツと修繕整備が成される為、一人一口奉納のお勧め、また功德会費納入を勧めあつて、教講共々に外護の御奉公、財の功德を積ませていただきましょう。

④ 御利益談を語る信徒の育成・御講願主・御会式参詣者増加

清流寺、また布教区として大きなテーマとして掲げさせていたいただいたのが「語り継ぐ御奉公の実践」「伝達力の強化」というものです。

現証布教を大事とする当宗にあつて、体験談や御利益談が教区内に上がつてこないことほど寂しいものはありません。

黙して語らずとも以心伝心、とはなかなかいかないものですから、ご信心の素晴らしさを実感していただくため

には、どんな体験談や御利益談を語り伝えていくことが不可欠ですし、御講や御会式の大事も勇気を出してお話させていただけなければ伝わりません。

「こんなお話、大したことないから」「どうせ聞き流されて終わりだ」と思わず、どんな小さなことでも語つていただける信者とならせていただきましょう。その殻を破れば、必ず我が身の果報に繋がつてまいります。

⑤ お助行御法門聴聞励行・御奉公内容充実・教講一同ご利益感得

この二・三年、同じような項目を掲げさせていたただいておりますが、やはり「口唱」と「聞法」はご信心、また積功累徳の要です。各教区各部、各教養各会でこの二つが積極的に実践できるようなれば、自ずと御奉公も充実してまいります。

「御利益感得」という項目を入れさせていたいただきましたが、これは本寺乗泉寺で毎年必ず入れられる大事大切な御祈願だと教わりました。

末寺である清流寺もそれにならぬ、教講がおしなべて御利益を頂ける佛立信者となれるよう、水魚の思いをなして御奉公にあたらせていただきましょう。

本年は乙巳(きのと・み)、十干の上で、乙には「困難があつても紆余曲折しながら進むこと」という意味があり、巳(へび)は「再生と変化」の象徴と言われます。努力精進を重ね、困難の局面を乗り越えてまいります。よろしくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

事務局長

新年のご挨拶を申し上げます。

(一)令和七年の今年、「昭和百年」の年ともいわれています。終戦の年、昭和二十年生まれの方は、八十歳。

四十年生まれの方は、還暦の六十歳。

当山の創立は、昭和二十二年、あと三年で八十年をむかえます。

種々の行事が検討されており、力を合わせて取り組んでまいります。

(二)ご信者さんの高齢化、特にお役中さんの高齢化は、寺内だけでなく、宗門全般にあります。

教区でも、部でも、自宅にいても後継者の育成がな

よりも大切です。教区、部内に見直しと共に急がれます。「次はあなたよ」と。

(三)日鏡上人五ヶ年報恩御奉公の寺内境内整備御有志は、皆々様の志篤い奉納をいただいております。

昨年度は、台風の被害を受けた、納骨堂の屋根の改修がようやく完了致しました。

新しく指摘された修復箇所も数多く、引き続きご有志のお願いをさせていただきたいと存じます。

(四)本山初灯明料の奉納は、最も中心となるご奉公で、宗門人が一年の初めに「お初穂」として奉納させていただく大きな意味のある奉納です。

ご家族皆様様による随喜奉納につとめましょう。

(五)東京中央布教区長と宗会議員は、当山住職がつとめられます。また、当山の Y さんが、

布教区の婦人会連絡会代表(会長)、本庄序開師と M さんが役員として活躍されます。

みんなで、しっかりとバックアップしてまいります。

末筆乍ら、寺内各位のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、引き続き皆様様の尚一層のご奉公を切望して、ご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。

合掌

令和七年 寒参詣交流 久遠寺さんと

本年の交流参詣は、久遠寺さんとの組み合わせとなりました。

一月廿六日(日)に久遠寺さんより、当山へ激励参詣をいただき、二月二日に当山より久遠寺さんへお参詣させていただきます。

からどう育成していくか?という事と信応師の願いであった親会場を設立していくにはどういう事が必要なのかという事を皆で話し合い異体同心で前進していきたいと思っております。

清流寺のご住職お教務様方、ご信者の皆様、いつも本当にありがとうございます。そして今年もどうぞQLD組を宜しくお願い申し上げます。

合掌

謹賀新年



住職 長谷川 清泊

教務部 本庄 乗学

安藤 序典

浅沼 序説

本庄 序開

事務局長

参事会

クイーンズランド組信徒一同

寺務所職員一同